

ボス・新顔

New Boss

限 界 設 け ず
清 末 浩 史 氏

(JFE商事プリキ
センター社長)



▼(大阪) 4月1日に就任。社長という役職については「J商の元上司が退職の際に「一度は社長がしたかった」と残念そうに話していたのを覚えている。そんな偉い人がやりたがる社長とはどんな仕事か経験しなかったから、就任できて嬉しい」。今後については「とにかく限界を設けず、興味と好奇心をもって一所懸命にやるのみ」と意気込みを見せる。

川商の亜鉛鉄板部住宅資材グループに移ったが、そこでは「引き継いだ商権だけでなく自分で新しい商売を作りたくなり、需要を深掘りする意味でプレス加工品の販売にトライした」。07年にJFE商事からJFE商事薄板建材へ出向し、第3営業部営業室長に就任。10年JFE商事鉄鋼総括部

鉄鋼企画室長、14年同部鉄鋼総括室長。17年4月から現職。

▼プリキ需要が昔より減っていることについては「下げ止まってきたし、当社が関わる一般缶や工業缶にはまだまだ可能性がある」。そのため、将来に向けては「JFEグループの中核プリキセンターとして事業を継続・強化

顧客満足にこだわり存在感

事業の継続・強化が課題

していく力をつけること」が課題と考えている。それは、たとえば安全性や生産性を高めるために老朽化した設備を若返らせることで「まずは8月にコーターの入れ替えを行なう。もう1台の入れ替えも検討中だ」という。一方、営業面では「お客様の中での当社の地位を上げたい。たとえば、当社はお客様に求められればJ商グループ各企業の協力を仰いで、プリキ以外でも必要なものを供給できる。顧客満足にこだわり、限界を設けず存在感を高めたい」とする。販売目標は、前期比若干上振れとなる年間4万トナだ。

▼1993(平成5)年に同志社大学商学部を卒業し、川鉄商事へ入社。土木建材部加工製品グループに配属され、ガイドロールやフェンスの販売に従事した。96年に出向した川商シビルコ(現JFE商事鉄鋼建材)では、その1年後に1人で横浜営業所を立ち上げる事となったが「20代でそんな経験ができたし、1年目から黒字を出せて嬉しかった」。98年には

鉄鋼企画室長、14年同部鉄鋼総括室長。17年4月から現職。

▼大学時代は遺跡発掘調査のアルバイトに精を出し「珍しい土器を発見してしまったこともあった(笑)」。自宅は神奈川県藤沢市で、現在は会社の最寄り駅周辺に単身赴任中。「GWに自宅から車を持ってきて行動範囲が広がった。友人や昔の同僚らと四国にうどんを食べに行ったりしたい」とイベント好きの一面も覗かせる。底なしの酒豪。家族は妻と2女。大阪府交野市出身。70年7月生れ。同志社香里高校卒。(末)